

矢作川流域圏懇談会

海部会の令和4年度の活動成果と今年の活動目標



矢作川流域圏懇談会のゆるキャラ
「はぎぼう」

日時：令和5年6月5日（月）

市民部会

新たな公開講座開催の検討
農業を切り口に、「みどりの食料
システム戦略」や「冬水田んぼ」の
勉強会を開催し、流域の
課題について検討。



山部会

根羽村、恵那市、豊田市、
岡崎市、幸田町にてワーキングと
フィールドワークを開催し、流域
の山が抱える課題について、
解決策を検討を実施



川部会

海部会合同で鶴の首掘削箇所・
ヨシ原再生箇所等を見学し、生き
物の棲みやすい環境について
検討。流域の関係団体、
生態系ネットワーク等
との関係性を
模索



海部会

公開講座「豊かな海の栄養源」
を全国に発信するとともに、川部会
合同で、干潟造成箇所等を見学
海が抱える課題について、
解決策の検討を実施



1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

《令和4年度の当初目標》

4つのテーマに対して情報共有と意見交換を行うだけでなく、情報を発信する。また、それぞれのテーマについて、相互に作用し合っていることを意識しながら、課題の解決手法について検討する。

＜テーマ＞

＜解決手法＞

ごみの問題

- ごみの問題は、三河湾だけではなく伊勢湾全体の課題であるため、より広い範囲での情報共有と発信を行うとともに、ごみ問題に関わる活動との連携をはかる。

豊かな海の再生
に向けた取り組み

- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識を、山・川・海共通の課題として周知する。
- 豊川などの自然再生に関わる活動について、情報を共有する。

海と人の絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- アートやダイバーシティなど、新しい視点を体験・見学し、各種課題の糸口を模索する。

土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う。

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

海部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第49回WG（22名）	5月26日（木） 13:30-16:00	西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第3回公開講座（140名） ZOOM参加者127名、会場参加者13名	8月20日（土） 15:00-17:00	名駅南オルバースビル 2階 会議室A室
第50回WG（25名）	10月19日（水） 14:00-16:30	西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
海・川合同部会FW・WG（24名）	11月22日（火） 10:00-16:15	鵜の首掘削箇所・ヨシ原再生箇所・ 干潟造成箇所・西尾市文化会館
第14回海部会 まとめの会（16名）	1月24日（火） 14:00-16:30	西尾市中央ふれあいセンター 南棟1階 第1研修室

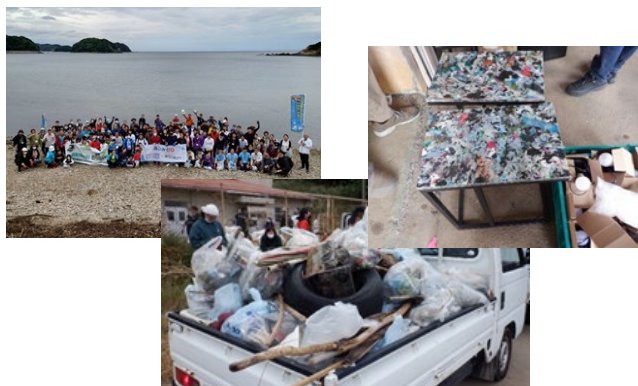
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

①ごみの問題 | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

〈ごみの問題は、三河湾だけではなく伊勢湾全体の課題であるため、より広い範囲での情報共有と発信を行うとともに、ごみ問題に関わる活動との連携をはかる〉

- 10月8日～9日に開催された「22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会」の答志島合宿（海岸清掃）の参加報告を行い、答志島（伊勢湾）のごみの漂着状況や活動紹介について共有した。
- 第50回海部会WG（10月19日）にて、伊勢湾の海岸等で収集した海洋プラスチックを活用してアクセサリーを作成・販売しているsobolonの山崎氏より、環境問題に対する想いや活動紹介について報告いただき、ゴミ問題に関わる活動との連携をはかった。
- 野田氏（矢作川環境技術研究会）より、豊川河口の六条干潟周辺での海岸清掃の様子と漂着ごみに含まれるマイクロプラスチックの状況について、生き物が生息するところにも多くのマイクロプラスチックが含まれていることを報告された。



答志島合宿（海岸清掃）の様子



海洋プラスチックを活用したアクセサリー
(sobolon作成)

提供資料その2 海岸清掃、干潟の海ゴミ・マイクロプラスチック例（2022年夏季）



写真1 市民参加の海岸清掃（前芝干潟）開会式

写真2 同左：海岸清掃活動（前芝海岸～西浜大橋）

写真3 漂着した海ゴミ（防瀬堤下の砂浜・満潮時）

写真4 同左（拡大）、マイクロプラスチック類

豊川海岸清掃についての資料（野田氏提供）

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

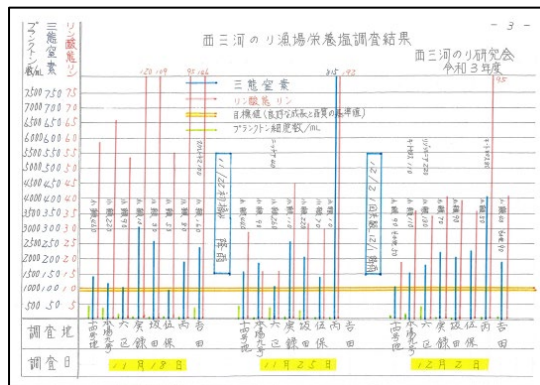
②豊かな海の再生に向けた取り組み | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

＜引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う＞

- 第49回海部会WG（5月26日）において、吉田漁業協同組合の石川組合長より、アサリやノリの漁獲量の現状や海の栄養塩の状況等について情報共有がなされた。
- 栄養塩である窒素・リンが豊富であると、真っ黒な商品価値の高いノリが採れるが、近年では栄養塩不足のためノリの品質が下がっており、生産金額に影響がでている。それに伴い、ノリ養殖者の減少にもつながっている。現在、矢作川浄化センターの試験的なリン増量放流により栄養塩濃度が高くなってきており、漁場にプラス効果がでてきている。しかしながら、栄養塩を食するプランクトンのユーカンピアが発生していることが懸念する事項となっている。



ノリの標本をみている（第49回海部会WG）



ノリ漁場栄養塩調査結果（資料一部抜粋）
（吉田漁業協同組合の石川組合長提供）



アサリ肥満度（資料一部抜粋）

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

②豊かな海の再生に向けた取り組み | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

＜「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識を山・川・海共通の課題として周知する＞

「豊かな海の栄養源～きれいな海は豊かな海か？～」

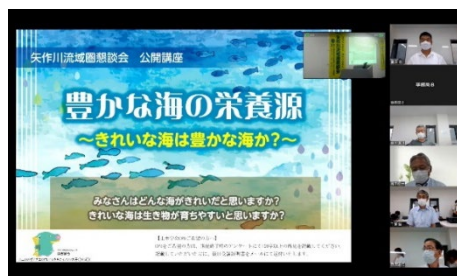
実施時期：令和4年8月20日（土）15：00～17：00

講師：京都大学名誉教授 藤原 建紀 氏

参加者：140名（ZOOM参加者127名、会場参加者13名）

YouTube再生数：160回再生（2023年2月6日時点）

- 第3回公開講座を実施し、オンライン配信やYouTubeを活用して、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識を全国に発信した。
- 栄養塩不足に関する今後の対策として、干潟・浅場造成の経過観察を行うとともに、貧酸素水塊の状況を把握し海域への影響や生き物の状況を観察しながら、引き続き矢作川浄化センターでの管理運転を実施していく必要がある。



公開講座の様子（左：オンライン配信 右：会議室）

矢作川流域懇談会 公開講座

豊かな海の栄養源

～きれいな海は豊かな海か？～

みなさんはどんな海がきれいだと思いますか？
きれいな海は生き物が育ちやすいと思いますか？

田畑で農作物が豊かに育つには、窒素やリン肥料が必要のように、海においても多くの生き物が豊かに育つには、窒素やリンなどの栄養分が必要です。ところが近年、海の栄養分がだんだん減っています。このため、アサリやハマグリが育たなくなり、皆さんが大好きな潮干狩りができない海岸が日本の各地で多くなっています。今回は法改正を行った瀬戸内海の取組みをご紹介します。果たして、きれいな海は豊かな海なのでしょうか？

本講座では、京都大学名誉教授の藤原氏を講師にお招きし、瀬戸内海の取組みについてお話しさせていただきます。この機会に是非、海の栄養不足について考えてみてください。


講師 藤原 建紀 氏
京都大学名誉教授

令和4年 8月20日（土） 15:00～17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名
土木学会CPD認定プログラム

参加無料

申込方法 ①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込みください。
お申込みいただいた方に講座で使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限：8月18日（水）17:00まで

専用フォーム申込コード 

専用フォームURL https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_sDNE1h6TF5XMWEQrChUsw

主催 矢作川流域懇談会 運営事務局：アジア印刷株式会社 南井
後援 公益社団法人 土木学会中部支部 E-mail: shirakawa@asiamprint.co.jp
TEL: 070-4926-9073（受付時間 10:00～17:00）

公開講座案内用チラシ

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

②豊かな海の再生に向けた取り組み | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

<豊川などの自然再生に関わる活動について、情報を共有する>

- 海・川合同部会（11月22日）において、自然再生事業の一環として実施されているヨシ原再生の現場を視察し、事務局より状況を説明した。
- ヨシ原再生事業では、ヨシ原に依存する鳥類（オオヨシキリ・オオジュリンなど）やカニ類（アシハラガニ、クロベンケイガニなど）の生息個体数の回復を目標に、多様な生物の生息環境の再生を目指している。
- 事業では、陸地化したところの水際を盤下げし、冠水頻度を高めることによりヨシ原を再生しており、ヨシ原再生事業により発生した土砂は海まで運搬し、干潟・浅場造成に利用している。
- 豊川での自然再生事業については、部会内での情報共有は未実施であった。→令和5年度（案）



ヨシ原再生箇所の様子



ヨシ原再生事業の解説の様子（海・川合同部会）



ヨシ原再生により発生した土砂（工事の様子）

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

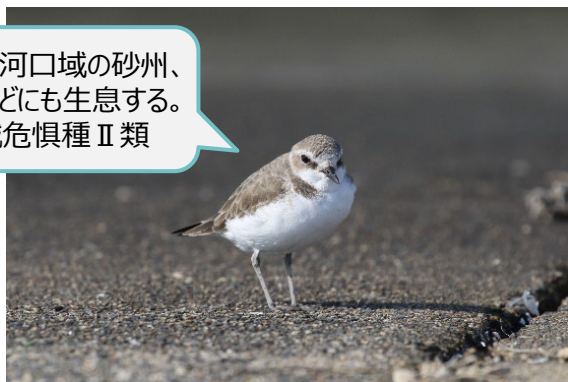
③海と人の絆 | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

<海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす>

- 矢作川感謝祭（9月18日）において、上下流連携の取り組みとして、東幡豆漁業協同組合と海の生き物展示の準備をしていたが、悪天候のため出展は見合わせた。
- 海・川合同部会（11月22日）において、西三河野鳥の会の高橋氏より、海鳥の昔と今の変化について、「干潟造成箇所では、かつては万単位のチドリの群れが飛び回っていたが、最近では激減している。」との報告がなされた。
- 川部会より、干潟観察会や生き物ふれあい観察会などのイベントを実施している西三河南部生態系ネットワーク協議会との共同連携について提案された。



海岸や河口域の砂州、干潟などにも生息する。絶滅危惧種Ⅱ類



鳥名：シロチドリ
撮影場所：西尾市一色町
撮影者：高橋氏
(西三河野鳥の会)

海・川合同部会での解説の様子
高橋氏（西三河野鳥の会）



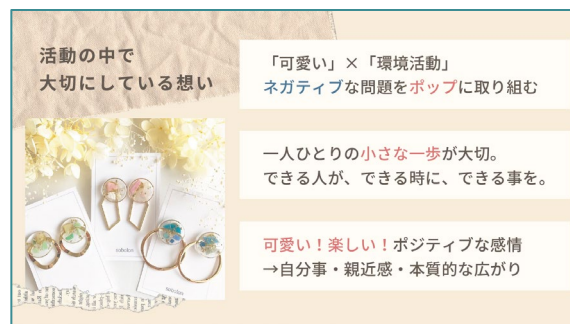
西三河南部生態系ネットワーク
パンフレット（一部抜粋）

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

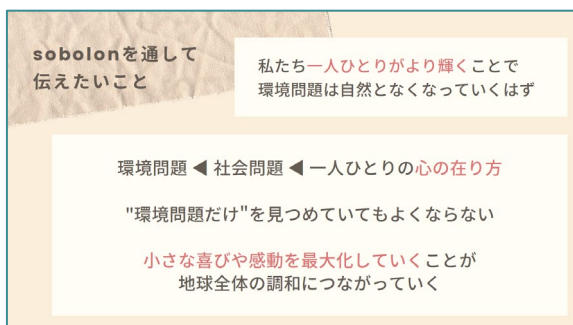
③海と人の絆 | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

＜アートやダイバーシティなど、新しい視点を体験・見学し、各種課題の糸口を模索する＞

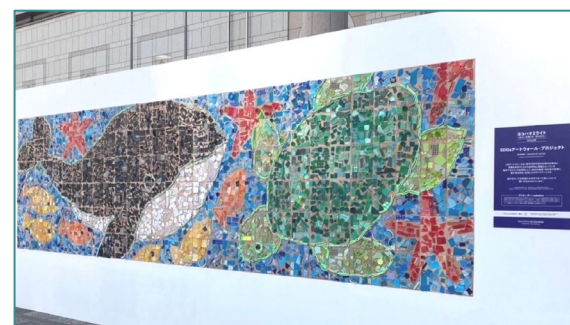
- 第50回海部会WG（10月19日）にて、「可愛い地球を守る」をコンセプトに、伊勢湾の海岸に漂着した海洋プラスチックを活用し、アクセサリーを作成・販売しているsobolonの山崎氏より、環境問題に対する想いや活動紹介を報告いただき、海ごみの利活用という新しい視点から海ごみの課題について意見交換を行うことができた。



第50回海部会WG全体の様子



壁画モザイクアートにも海洋プラスチックを利用



アクセサリーをみている様子

山崎氏（sobolon）による話題提供（資料一部抜粋）

1. 令和4年度の活動目標と活動成果 海部会の活動成果

④土砂の問題 | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

＜河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う＞

- 海・川合同部会（11月22日）にて、鵜の首の掘削箇所（鵜の首地区水位低下対策事業）、ヨシ原再生箇所（ヨシ原再生事業）、干潟造成箇所（干潟・浅場造成事業）の現地視察および会議室での意見交換を行い、土砂の問題や活用事例について認識を深めた。

【干潟・浅場造成事業の背景】

- 三河湾では1945年から1978年に開発事業により約1,200haの干潟・浅場が消失している
- 干潟・浅場の減少により、海域の水質浄化機能が低下し、赤潮の増加や貧酸素水塊の拡大が問題となる
- 水質浄化機能の回復や漁場造成のため、愛知県では干潟・浅場造成事業を実施してきた
- 良質な造成材の確保が課題であったが、2021年度から国土交通省中部地方整備局と連携を図り、矢作川やダム の堆積砂を活用して事業を拡大している
- 2021年度は河川砂約24,000m³、ダム砂約5,000m³を用い西尾市14号地地先で6.2haの漁場造成工事を実施している

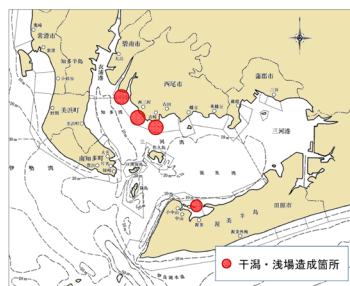
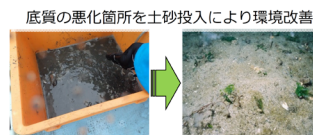


図 干潟・浅場造成の実施箇所 (2015-2021)

【造成した干潟・浅場の管理および利用】

- 造成後は地元の漁業者および漁協が管理を行っている
 - アサリ稚貝放流による資源増殖
 - ツメタガイ等の害敵生物駆除や耕耘
- 水産試験場の効果調査を継続して実施
 - 底質、底生生物などを調査し、造成から数年経過後も良好な底質環境が維持されていることが確認される
 - 底質環境が改善し、多様な底生生物が加入することで、水質浄化機能が発現している
- 西三河地区では2015年に約7千tあった漁獲量が、大きく落ち込んだが、2021年から漁獲量の回復が見られ2022年度も上向きである



漁場として利用可能に

谷川氏（愛知県水産試験場）による話題提供（資料一部抜粋）



ヨシ原再生の解説の様子



干潟造成の工事の様子



集合写真（海・川合同部会）

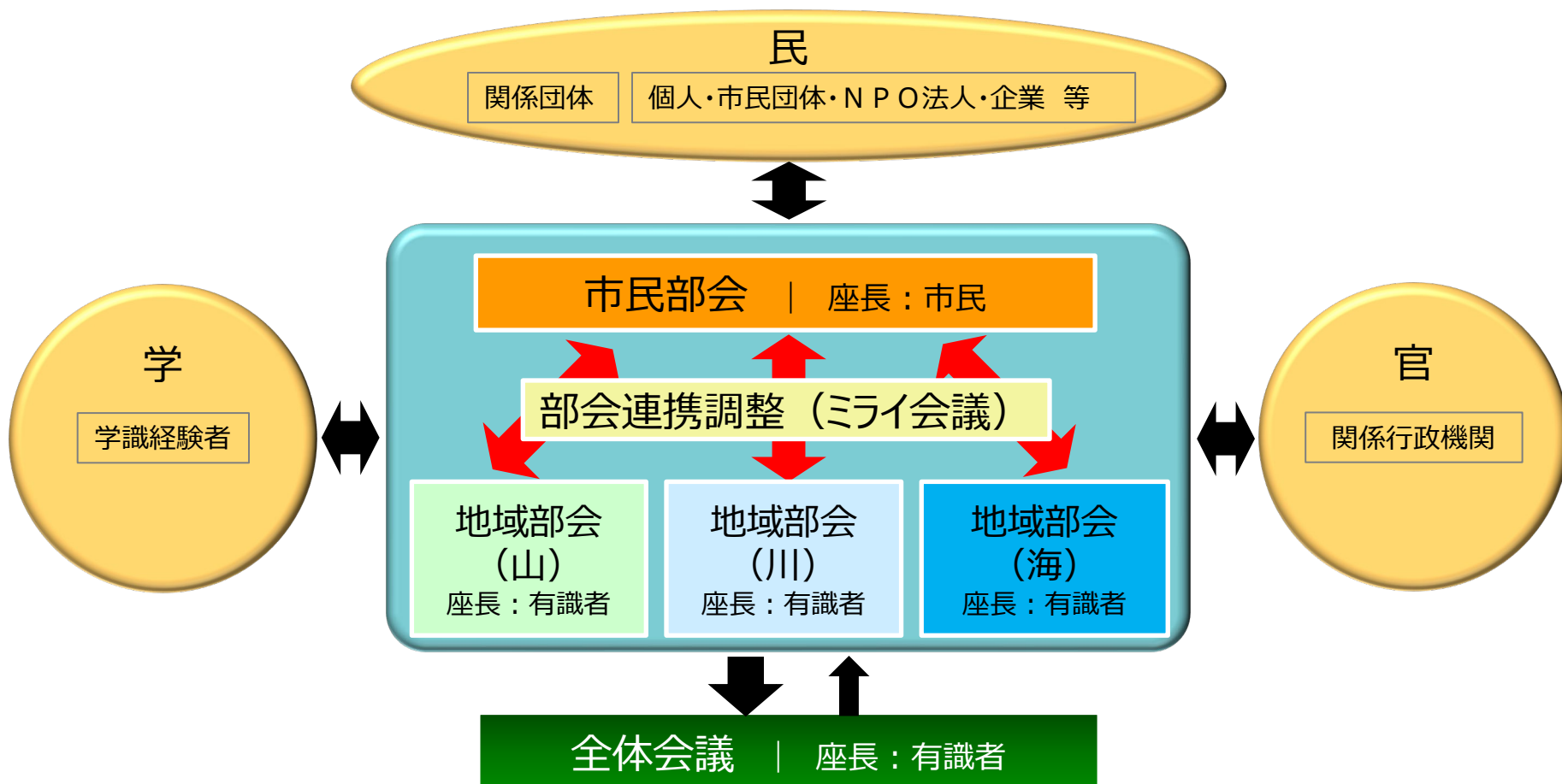


干潟造成地の記録（UAV）

2.令和5年度の体制及び活動目標 今後の体制

■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。



2.令和5年度の体制及び活動目標 スケジュール

■ スケジュール案

- 市民部会は、WG、まとめの会を実施するとともに、バスツアーや公開講座の実施を検討する。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、山、川、海で開催する。フィールドワークは随時実施する。また、総括として全体会議に向けた「まとめの会」を実施する。
- 部会連携調整（通称：ミライ会議）を開催する。今後の流域圏の在り方等を検討、支援する。
- 中間報告会を令和5年11月に予定し、さらに全体会議を令和6年11月に行い、約一年半の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントに参加する。以下、想定されるイベント。
①矢作川感謝祭 ②“いい川”・“いい川づくり”WS ③三河湾大感謝祭

体制・イベント		月																			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
市民部会	WG 勉強会	←-----→																			
	まとめの会																		●		
地域部会	WG フィールドワーク	←-----→																			
	まとめの会																		●		
全体会議	話し合いの会									★										★	
部会連携調整	ミライ会議	←-----→																			
流域連携に関するイベント							①	②	③										①	②	③

2.令和5年度の体制及び活動目標 海部会の活動目標

令和5年度の活動目標

- 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

テーマ別の活動目標

■ 豊かな海の再生に向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。

■ 海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。

■ 土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。

■ ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。